

令和7年度SDGs未来都市等成果報告会（11.14開催）

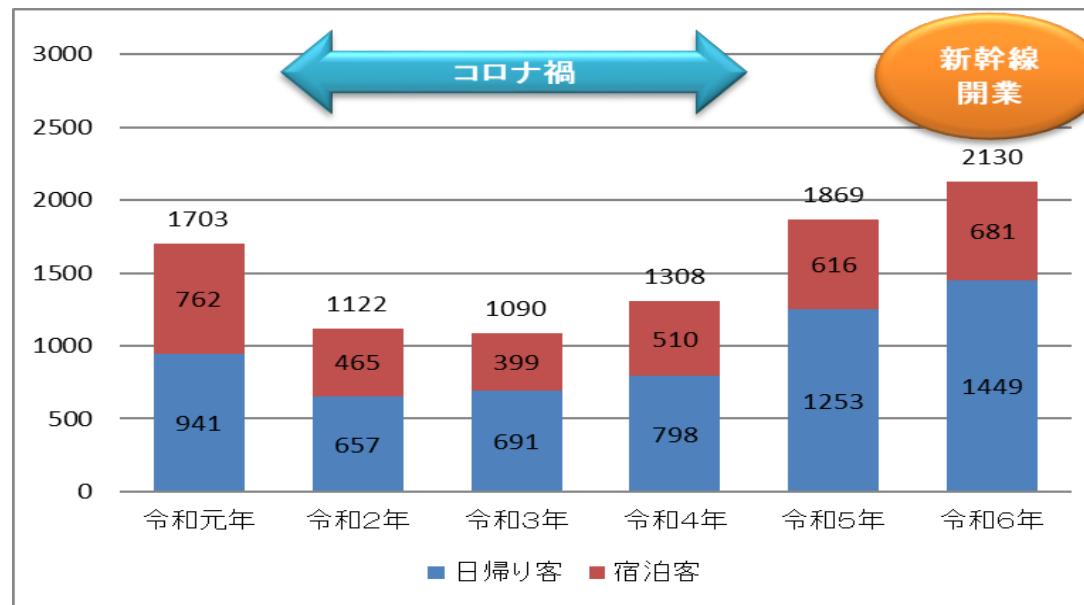
あわら市観光まちづくりの推進

福井県あわら市（2024年度SDGs課題解決モデル都市選定）



● 地域の特徴 (取組を発想した背景)

- ・ あわら市は平成16年に旧芦原町と旧金津町が合併して誕生した市で、福井県の最北端に位置
- ・ 人口は26,036人（令和7年10月1日時点）で、直近**10年間で約3,000人減少**
- ・ 「関西の奥座敷」と称される**県内屈指の温泉地「あわら温泉」**があり、東尋坊や大本山永平寺、福井県立恐竜博物館などの有名観光地へのアクセスが良好な宿泊拠点
- ・ 令和6年春には**北陸新幹線芦原温泉駅が開業**し、関東圏からの観光客が増加したが、**効果を持続させることが重要**
- ・ あわら市では、製造業に次いで、温泉旅館などの**宿泊業**が雇用力と稼ぐ力を持っている。この**宿泊業**と、あわら温泉に深く関わる**飲食業**や**農業**などについて、地場に根付く産業として、今後さらに**稼ぐ力と雇用力を底上げしていくことが地域存続に直結**するため、**あわら温泉の活性化と持続可能な地域経営の体制づくり**が不可欠



出典：
令和6年あわら市観光白書

● 取組の内容と成果

R5年度 あわら市観光まちづくりビジョン策定

Misson

來たい、住みたい、オススメしたい 世界に愛されるまち AWARA

Vision

私たちにも、訪れる人にも、笑顔が巡るまち

Action Plan

1. 温泉街の観光拠点強化
2. 地域連携による魅力創出
3. 観光まちづくりの推進体制整備
4. 未来に続くまちづくり

- ・観光事業者の人材不足や雇用のミスマッチ、人口減少による地域経済の縮小などの経済的課題
- ・空き家、空き店舗の増加などの環境的課題
- ・若者の市外流出による活力不足や、行政と民間の連携不足などの社会的課題



R6年度はこれらの課題を解決し、上記ビジョンを実現していくために、専門家とともに、各アクションプランの具体化を進めた。

● 取組の内容と成果

【温泉街の観光拠点強化】 (経済)

- ・地域価値を高める集積拠点や機能の決定
- ・あわら温泉湯のまち広場を中心とするあわら温泉のランドスケープ再編と民間投資の促進

【地域連携による魅力創出】 (経済・環境・社会)

- ・空き物件の利活用
- ・農家や飲食店との連携による地域価値創出

【未来に続くまちづくり】 (経済・環境・社会)

- ・環境に配慮した二次交通の検討 (ゼロカーボンシティの推進)
- ・地消地産の促進
- ・若い世代の愛着醸成 (住環境の満足度向上)

【観光まちづくりの推進体制整備】 (経済・社会)

- ・持続可能な地域経営主体の組成
- ・エリア全体でのマーケティング推進体制の構築

● 取組の内容と成果

<アクションプランの具体化>

・温泉街のランドスケープデザイン検討（官主導）

温泉街の魅力を向上させ、民間投資を促進するようなランドスケープデザインの検討（湯のまち広場とまちの結節点として湯～わくStandの設置、回遊性向上のための三薬師ライトアップなど）



・観光拠点施設の基本方針検討（官主導）

セントピアあわらを、地域の総湯として自分たちの暮らしをアップデートしていくための施設にすることを目指し、民間活力導入の事業可能性を調査するとともに、必要な機能を検討



・旅館送迎バスの共同化（民間主導）

あわら温泉の4旅館が、それぞれのリソースを活用し送迎バス共同化の実証実験を実施。共同化を見据えた道路空間の再編整備に反映していく。



・あわら温泉湯のまち広場にて飲食事業試験運営（民間主導）

湯のまち広場内において、旅館事業者がカフェを試験的に運営。令和7年度の社会実験においても、コンテナカフェを設置し、広場全体の魅力向上や滞在性向上のための飲食・物販機能のあり方を検証し、広場のハード整備計画と連動させていく。

旅館送迎バス共同化 試験運行

・浴衣まち歩き促進事業（官民連携）

旅館と飲食店等との連携で、まち歩きを促進させるための実証実験を実施。令和7年度の社会実験中も、浴衣のまち歩き企画やイベントを実施。回遊性向上のためのハード整備と連動させていく。



広場内カフェ運営

● 取組の内容と成果



● 困難やつまずきなど苦労したこと及びそれをどのように克服したか

- ◆いろいろな人から、いろいろな意見が出てくるが、全ての意見を反映させていくのは難しい
→地域の人たちの中でも、実際にまちのために動く方たちの意見を取り入れていくことが重要。自主性を育むことも重要。
- ◆企画案や事業のアイディアなどは提案があるが、それをやるプレイヤーがいないと実施できない
→アイディアだけを広く募集するようなワークショップや会議ではなく、誰がやるのか、プレイヤーと事業が必ず紐づくような形で考えていくことが必要。
- ◆民間事業者の意向を重視すべき部分もあり、行政として公平性の観点から曲げられない部分もある
→各段階でどう判断していくのが良いのか、その都度専門家も含めて検討しながら進めている。

● 推進体制（ヒト・力ネ・モノ）の整備方法

行政だけでは、人材もノウハウも予算も限りがある。また、民間事業者が事業を継続していくには、事業が成り立つ環境が重要。民にしかできない部分を、民間事業者にしっかりと担ってもらうために、事業性を重視しつつ、官にしかできない部分を、行政が実施することで、官民連携の相乗効果をもたらす推進体制を構築していくべきだと考える。

今回、そういった長期的な視点で推進体制、運営体制を考える専門家とともに進めているので、アドバイスをもらいながら進めていく。

● 庁内調整・外部調整の工夫

【府内調整】

どの部署も人員不足の状況にある。

観光振興課が、観光まちづくり事業としてスタートさせているので、最初の段取りはある程度こちらでやりつつ、担当課が目指すゴールと同じ方向を向けるものもあるので、連携しながら進めていく。（例：空き家対策や農業振興、道路整備など）

これまででは、関連部署の課長が出席した状態で会議を実施。来年度以降は、さらに府内でプロジェクトチームを立ち上げるなどの体制が重要になってくる。

【外部調整】

官民連携で進めることが重要なので、民間事業者や地域住民などとの調整が多いが、できるだけ早い段階で、事前に情報共有をしていくよう心掛けている。

民間主導のプロジェクトなどもあるが、市が関わっていると、市が主体だと認識されてしまう。できるだけ民間事業者が主体的に関わってもらえるような立ち回りを心掛けている。

● SDGsの視点と政策をどのように結びつけたか

10年先の話ではなく、50年後、100年後を見据えて、まちのことを考える視点を、専門家の木村さん方から、学んでいる。

観光振興の視点で考えると、前年と比べたり、2、3年後の成果などを見据えたりすることが多いが、長期的な視点に立ち、「まち」の本質的な魅力を向上させていくためには、また、エリアを存続させていくためには、どうしていくべきか、を検討している。

行政がハード整備を実施したとしても、運営や維持管理をどうしていくのが持続可能性につながるのか、安定した財源をどう確保していくのか、が重要になるため、決めていく。

● SDGsの取組を推進して良かったこと・周囲の反応など

(まだまだ道半ばで、最終的な成果はこれからになるが…。)

行政だけでなく、旅館、飲食店、農業関係者、地域住民など、いろいろな方たちと一緒に進めていくことで、自分ごととして捉えてくれている人たちが、少しずつ増えてきていることが一番重要。

● 今後の展望・他地域への展開

あわら市観光まちづくりの推進は、始まったばかりで、これからが本番。

< R 7 年度 > 第二世代交付金活用

R 6 年度に準備委員会で議論してきた将来像をもとに、温泉街全体をつかった社会実験（広場空間活用・飲食物販機能強化・まち歩き促進等）を実施。現地調査やアンケート調査の結果から、今の方針性に大きなエラーがないか、滞在性、回遊性が向上しているか等を検証して、今年度末に基本計画を策定する。

< R 8 年度～> 第二世代交付金活用

R 7 年度に策定の基本計画に基づき、温泉街のハード整備を進めるとともに、それらと連動させながら、官民連携の各アクションプランの具体化を進め、まちづくりの推進体制や、エリアマネジメント組織の組成を行っていく予定。



● その他

あわら湯のまち みらいプロジェクト 情報発信中

【公式Instagram】

ぜひフォローお願いします！

